

みっぼ 三ツ星シティつちうら

3班 佐々木洋典／香月秀仁／田中敬済／松永純／若林優妃 TA：小磯和紀

1. 背景

【1-1. 人口】

1990年から2002年にかけては人口、世帯数ともに増加傾向にあるが、2002年から2006年にかけて減少傾向にある。2010年の増加は新治村との合併によるものと考えられ、2014年には再び減少した。それに対して世帯数は増加を続け、一世帯あたりの人口は約0.7人減った。

また、コーホート分析による将来人口推計を行ったところ、2040年までの約15年間で人口は約3万人減少し、12万人を下回るという結果となった。

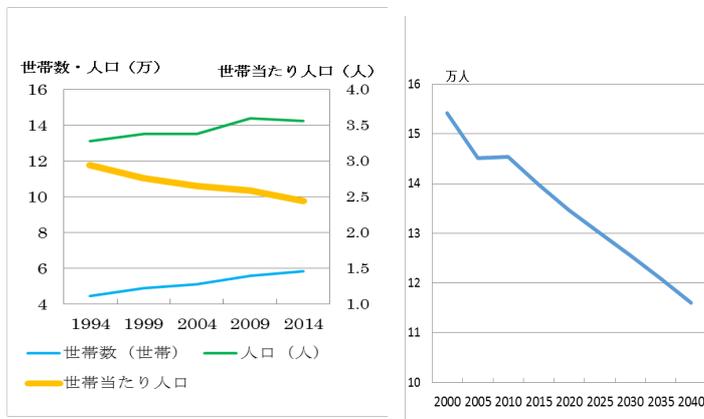


図1：土浦市内人口数・世帯数の推移

図2：将来人口予測

平成11年から平成26年にかけての性別ごとの年齢別人口割合、つまり人口ピラミッドの変化を見ていききたい平成11年ではいわゆるつりがね型の人口ピラミッドとなっているが、平成26年では、人口ピラミッドの変化はいわゆる釣鐘型からつぼ型に変化している。つまり、若年層の人口割合の減少とともに高齢人口割合が増加していることが分かる。

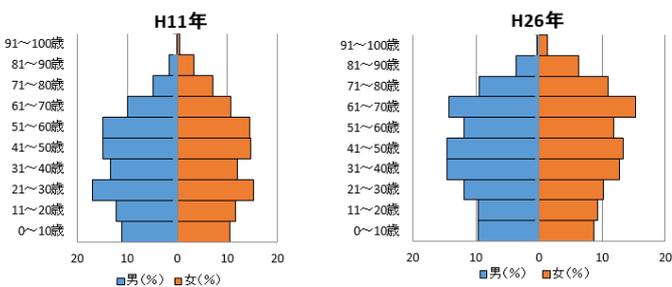


図3：人口ピラミッド

【1-2. 現地調査】

土浦市についての現状を探るために5回にわたって現地調査を行った。その中で我々は特に以下の4つの地点について以下のような感想を持った。

土浦駅・天川ショッピングセンター：シャッター街化が進行している

神立駅：駅周辺が暗い、歩道がない

烏山団地：老朽化が進行している。

それらを受けて我々は、土浦市全体に対して「住みにくそう」という印象を強く抱いた。

【1-3. 土浦市民満足度調査】

我々は、現地調査より土浦市には、「住みにくい」というマイナスなイメージを抱いた。では実際に住んでいる人たちは土浦市にどのようなイメージをもっているのだろうか。平成25年度の土浦市民満足度調査に「土浦市にどのようなイメージをもっていますか」という質問項目がある。それに対して土浦市の住民の回答のなかで最も多かったものは、活気がない、さびれている、駅前が閑散としている。というものでほかの回答よりも突出している。(24.2パーセント。ちなみに2位の回答は6.8パーセント)実際に住んでいる住民は土浦市には活気がないと感じていることが分かった。そこで我々は、「住民は土浦市に満足しているのだろうか」という疑問を抱いた。

そこで我々は土浦市民満足度調査というものに着目した、それによると「土浦市に住み心地についてどのように感じていますか」という項目では「住みよい」と答えた住民の割合は全体の38.6パーセントであった。隣の市のつくば市で行われた、似たような調査の中で、同じような質問項目に対して「住みよい」と答えた住民の割合は78.1パーセントもいることから、我々は土浦の「住み心地」を問題点として設定した。

また、その具体的な項目について目を向けると、満足していると答えた住民の割合が、満足していないと答えた住民の割合を下回った項目は「働く場」「老後の生活」「娯楽・レジャー」の3項目である(図4を参照)。これらの項目を解決すれば住民の満足度を上げることができるだろうと考え、取り組んでいきたいと考えた。

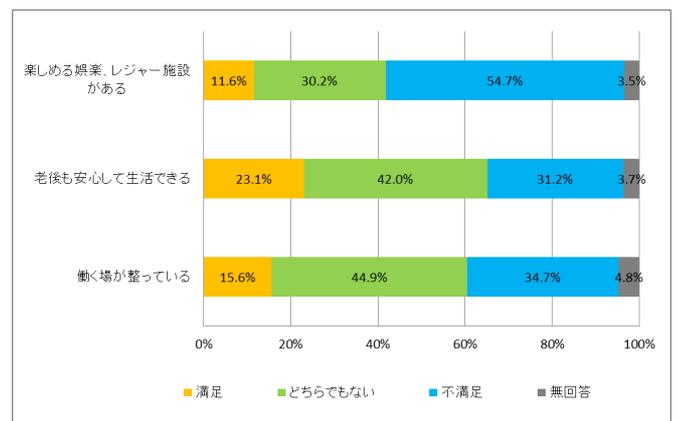


図4：土浦市民満足度調査における調査結果

次に、これら3つの項目はそれぞれどんな分野がかかわっているのかに着目した。「働く場」に関しては主な産業である工業・農業・商業を、「娯楽・レジャー」については市民が休日に行く施設について考えた上で商業・観光を、老後の生活については今後の需要を考え福祉・医療をピックアップした。

2. 目標都市像

我々は工業・農業・商業・観光・福祉・医療六つの分野について改善を加えることで「住民が満足して住める町『三ツ星シティ（みつぼしい） つちうら』」を作っていきたいと考え、目標都市像として設定した。



図5: 目標都市像のモデル像

3. 現状の把握・分析

[3-1. 工業]

土浦市の工業は市内にある複数の工業団地によって支えられており、茨城県内5位の規模となっている。主要なものとして東筑波新治工業団地、テクノパーク土浦北工業団地、テクノパーク土浦北工業団地、土浦・千代田工業団地がある。これら3つは全て土浦市北部の神立駅や常磐道土浦北ICの付近にあり、主な企業として日立グループ、コカコーラ、東レ、トステム、ノーリツなどの工場が立地している。

また、図6のように市内の工業従業員数も増加傾向であり、団地の利用率に目を向けると津のヒルズ以外の利用率はほぼ100%となっており、おおつ野ヒルズについても職住近接型の団地として分譲が順調に進められている現状から、我々は工業についてはより伸び代があるのではないかと考えた。

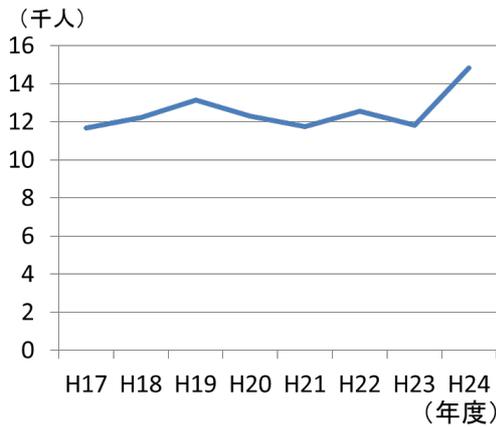


図6: 土浦市内工業従業員数

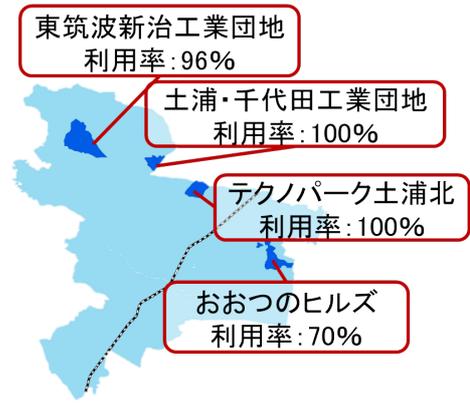


図7: 土浦市内の工業団地の利用率

[3-2 農業]

土浦の農業は日本第1位の出荷量を誇るレンコンをはじめとして花卉や果物なども生産しており、種類は多種多様である。農業産出額は一定の額を保っているものの、農業人口・農家数ともに年々減少する傾向にある。そのような農家の減少に伴い、耕作放棄地も増加してきている。これらの主な原因は高齢化と後継者不足にある。このような状況を受け、土浦市は国や県の政策に基づき、農業の衰退の対策事業を行っている。例えば、田んぼアートや田植え体験などである。

ふるさと農業体験塾などを開講し、都市と農村の交流事業耕作放棄地の再生利用の促進事業や後継者育成事業などの人農地プランの実施を行っている。土浦市の農業の主なフィールドは新治地区で、耕作放棄地の約半分が新治地区に集中している。また、都市と農村の交流事業においても重点地区として設定されている。図8は農業従事者の減少を表したものである。

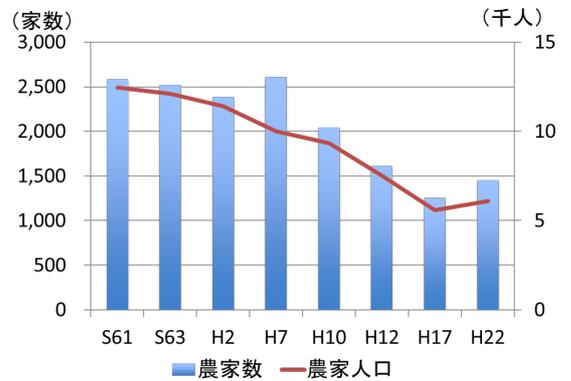


図8: 土浦市における農業人口の推移

[3-3. 商業]

土浦市の商業年間販売額は平成9年をピークに徐々に減少し、平成19年に一時増加したものの平成24年はピーク時と比べて、約6割減少している。また事業所数もピーク時の平成6年と比べて同じく約6割減少している。



図9：年間商業販売額と事業所数の推移

平成5年頃まで土浦市の商業の中心には土浦駅周辺の商店街・百貨店・スーパーなどが存在していた。しかし近年は土浦駅の前にあった西友が平成10年に閉鎖して以降、相次いで大型店の閉鎖撤退が起きており小網屋が平成11年に、東武ホテルが平成12年、丸井が平成15年、京成ホテルが平成19年、イトーヨーカドーが平成25年に駅前から姿を消している。

駅前の百貨店が撤退した背景として、市内には土浦イオンのような郊外型店舗が出店したことや、近隣の市町村にもつくば市のイーアスつくばやイオンつくば、阿見アウトレットモールなどの大型商業施設が相次いで出店したことが挙げられ、それによって引き起こされた中心市街地の空洞化が大きな課題となっている。

【3-4. 観光】

土浦市の観光においては、さくらまつり（4月）、キララまつり（8月）、花火大会（11月）の3つのイベントが代表的なものとなっている。しかし、これらのイベント時以外に観光目的で土浦を訪れる人は少なく、霞ヶ浦や筑波山麓の恵まれた自然資源や亀城公園やまちかど蔵などの歴史・文化的資源を生かしてきていないという課題がある。

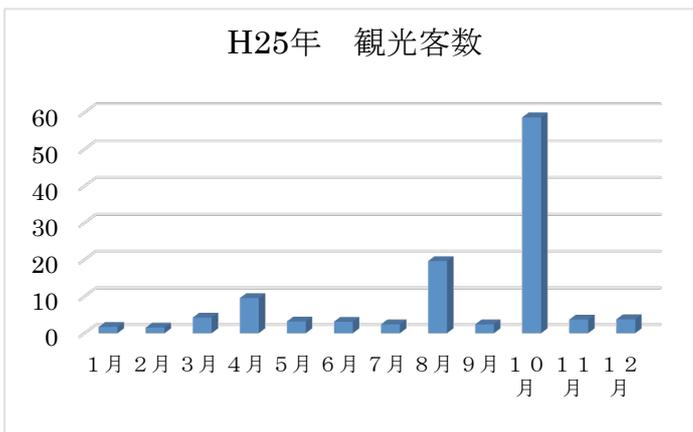


図10：H25年土浦市月別入り込み観光客数

【3-5. 福祉】

図11は要支援者・要介護者の推移を表したグラフである。要支援者は要介護認定を受ける一つ手前の段階であり、65歳以上の高齢人口の増加とともに、要支援者・要介護者の数は増加傾向にあることが見て取れる。それに伴い、福祉施設の入居希望者も増加することが予測される。そこで土浦市が行う高齢者に配慮した街への取り組みを調べると、ハード面の整備で、高齢者福祉施設の床数の増加計画がある。また、平成24年度に土浦市が策定した第5次土浦市 老人福祉計画及び介護保険事

業計画における 高齢者福祉施設の整備計画によると、平成24年から平成29年にかけて、介護老人福祉移設の床数37%増加、老人福祉施設で20%増加させる計画となっている。

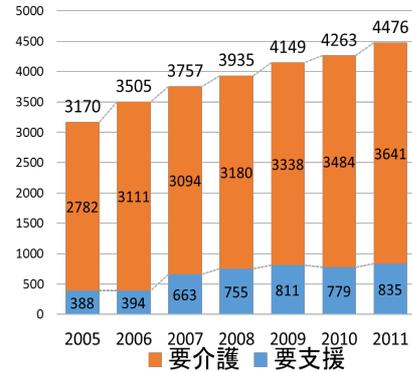


図11：要支援者・要介護者数の推移

図12は土浦市における高齢単身世帯の割合の推移を表したものである。昭和66年に2.3%だったが、30年後の平成22年には8%近くまで増加している。単身高齢者は運転が難しく、買い物に行けないという問題や、誰にも気づかれずに死を迎える孤独死といった問題を抱えており、今後の高齢化とともに、この傾向はより深刻になっていくと考えられる。ソフト面の取り組みでは、先ほど指摘した高齢単身世帯へのサービス提供として、配食サービスを民間業者に委託して実施している。これは先ほどの単身高齢世帯の問題点として挙げた買い物難民への対策と、安否確認の効果が期待できるというものである。

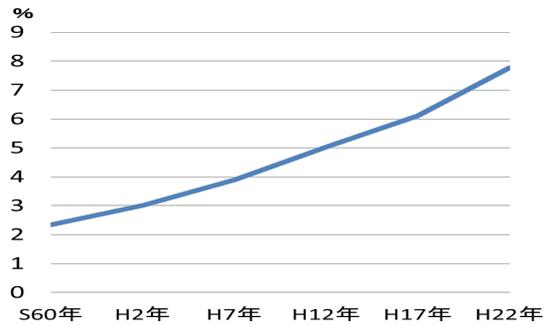


図12：土浦市の高齢単身世帯の割合

土浦市としてはハード・ソフト両面における施策を実施しているが、計画された床数が十分なのか、福祉従業者は十分に足りているのかを今後の課題として調査していきたい。

【3-6. 医療】

医療分野では、土浦市満足度調査の中でも六中地区(4.32)・新治中地区(4.42)において「休日・夜間などの救急医療体制」についての重要度がたくさんある項目の中でも最も高いという点に着目した。

この2地区内には急患を受け入れられる総合病院が存在しない地区であり、同時に、現在高齢化が進行している地区でもある。これらのことから救急車を必要とする場合に備えて、総合病院が近くにあることを望んでいるのではないかと考えた(図13参照)。

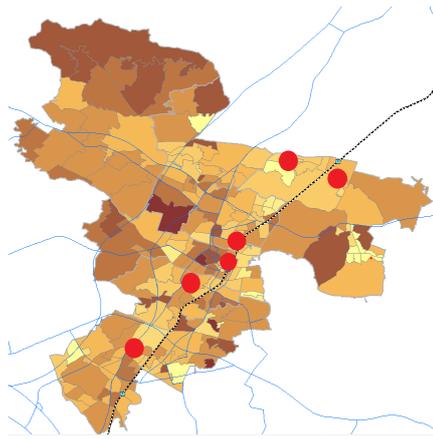


図13：土浦市内の総合病院の位置と高齢化割合

また、休日の市の当番医についても焦点を当てた。これは土浦市の11月の毎週日曜日における休日当番医の位置とその診療科目になり、それらの11月ひと月分をまとめたものとなる。これを見ると分かる通り、六中地区と新治中地区には歯科のみが割り振られていて、その他の診療科目については一切割り当てられていないことがわかる。



図14：診療科目別11月の日曜日緊急診療所の位置

5. 分野別構想

以上の現状を踏まえて図12のような構想により、住みよい街「三つ星シティつちうら」を目指して方策を講じることとする。

観光と農業については「地産来消」を掲げ、農産物を観光資源とすることにより、観光客にもっと農産物を知って味わってもらい、同時に農業の活性化を図りたい。商業については、空洞化が進行している中心市街地について賑わいを取り戻すための取組み、工業については今まで以上に盛んな産業とするために新規工業団地開拓とそれに伴う企業誘致を、福祉については今後の需要の増加に備え介護福祉施設の十分な床数の確保、医療については市民の不満点についてより調査を加えうえて、市民のニーズに沿った夜間休日の医療サービスを提案していきたい。

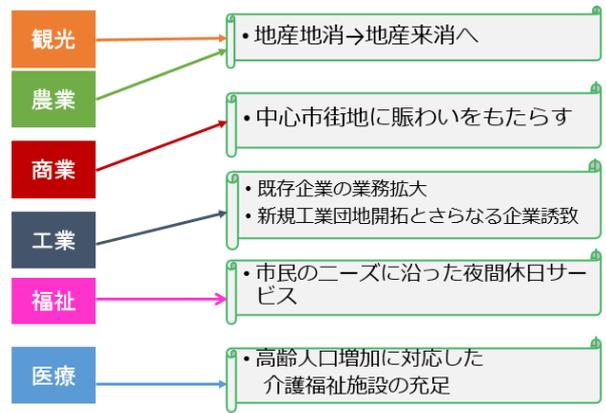


図12：分野別構想について

6. 今後の方針

①住民へのヒアリング

対象者：イベント（カレーフェスティバル）に参加している方

→どこから来たか、参加した理由など

市在住の高齢者

→福祉政策へのニーズ

②各分野についての課題解決の方策の策定と実現性の検討

7. 参考文献・資料

土浦市観光協会HP

<http://www.tsuchiura-kankou.jp/>

東洋経済 「住みよさランキング2014」

<http://toyokeizai.net/articles/-/40139>

土浦市「平成25年度土浦移民満足度調査報告書」

http://www.city.tsuchiura.lg.jp/data/doc/1402041574_doc_3_0.pdf

茨城県 「二次保健医療県別の状況」

http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/isei/div/doctor/base/doctor_base_data_01.pdf#search=%E8%8C%A8%E5%9F%8E%E7%9C%8C+%E4%BA%8C%E6%AC%A1%E4%BF%9D%E5%81%A5%E5%8C%BB%E7%99%82%E7%9C%8C%E5%88%A5%E3%81%AE%E7%8A%B6%E6%B3%81

土浦市総合交通体系調査概要

https://www.city.tsuchiura.lg.jp/data/doc/1220059103_doc_34.pdf#search=%E5%9C%9F%E6%B5%A6%E5%B8%82%E7%B7%8F%E5%90%88%E4%BA%A4%E9%80%9A%E4%BD%93%E7%B3%BB%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E6%A6%82%E8%A6%81

土浦市地域公共交通総合連携計画

http://www.city.tsuchiura.lg.jp/data/doc/1274404031_doc_34.pdf#search=%E5%9C%9F%E6%B5%A6%E5%B8%82%E5%9C%B0%E5%9F%9F%E5%85%AC%E5%85%B1%E4%BA%A4%E9%80%9A%E7%B7%8F%E5%90%88%E9%80%A3%E6%90%BA%E8%A8%88%E7%94%BB

統計つちうら（平成25年度）

http://www.city.tsuchiura.lg.jp/data/doc/1359681416_doc_8.pdf

土浦市 「土浦市地区別人口及び世帯数一覧（常住人口）」

<http://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/page001168.html>

鳥羽市 介護福祉

<https://www.city.toba.mie.jp/kourei/tyouzyu/ikigai-03.html>